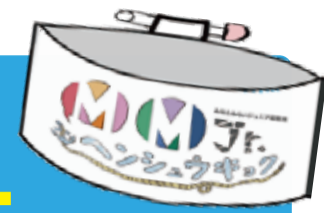


申し込みは  
4月20日まで

# みなとみらい MMジュニア記者6期生募集



子ども編集会議



みんなで取材!



記事を書く

取材でしか見られない施設のうら側や、大人へのインタビューなど、なかなかできない体験だよ!

小学4年生になったら記者になって地域でかつやくしよう!

## ジュニア記者になれる人は・・・

- ・2023年4月時点で小学4年生からおおむね高校生までの楽しい体験がしたい人!
- ・みなとみらいでの活動が中心なので、このエリアでの活動にひとりで参加できる人!
- ・年間参加費用1000円(ボランティア保険含む)がかかります。
- ・2023年5月から2024年3月までの活動です。最初の活動は5月を予定しています。(申込み後に説明会や編集会議の連絡をします)

## 応募は・・・

メールに必要事項を書いて申し込み、申し込みフォームからお申し込みください。

## お問い合わせは・・・

NPO法人ミニシティ・プラス  
minicityplus@gmail.com  
045-306-9004 (10時~18時 月曜休み)



## MMジュニア記者 2022年度にみなとみらいエリアの魅力の取材に参加したジュニア記者を紹介します(学年順)

**キム ナダン** 小学4年生。趣味はレゴを組み立てること。歴史の話が好き。これから色々なことを学び、取材をして行きたいです。

**ムー** 小学5年生の新人記者です。好きな食べ物はたくあんや冷ややつこ、もずく酢です。

**ゆきだるま** 小学5年生。趣味は電子ピアノを弾くこと、絵をかくこと、世界のドメインを調べてまとめることです。

**ビョンソヨン** 小学5年生。好きな食べ物はすしで、お絵かきが好きです。取材で新しいことに出会いたいです。

**山本未来** 中学2年生。ギターを弾くこと、小説を読むことが好き。みなとみらいの魅力を発信し、たくさんの人に笑顔になってもらいたいです。

**こばや** 中学2年生。鉄道と音楽が好きで、ギターとピアノをやっています。ジュニア記者5年目。

**ともん** 横浜大好き中学2年生。趣味は絵を描くことで、生き物の絵をたくさん描いています。取材を通して伝わりやすい記事になるよう、頑張ります。

**角さん** 横浜生まれ横浜育ちの高1。スポーツが得意。ジュニア記者5年目。みなとみらいの知らないところ、おもしろいところを取材し発信していきたいです。

**藤棚一番街協同組合**  
こども笑店街 など  
地域子ども達と一緒に  
まちづくりをしています!

**戸部大通り商店会**は  
地域子どもたちの活動  
を応援しています  
HPはこちら↑

**スカイビル調剤薬局**  
横浜市西区高島 2-19-12 スカイビル 9F  
TEL: 045-453-4193

クラウドファンディングを通して多くの方に「新聞発行の費用」のご支援をいただきました。みなさま、ありがとうございました。(敬称略 順不同)  
原田恵実 / Kae Sogo/kouki Shimizu / 氏家 靖典 / Kayo Ujii / 山岡義卓 / 高城芳之 / 若室里江 / 荒川政弘 / かなりあ少年少女合唱団 / 宮本照嗣 / 宮下敦行 / 宮下愛彩 / 馬場武志 / 百崎智子 / MasakoNakamura / Michio Matsumoto / A.T. / A.I. / I.H.

**編集後記**  
ジュニア編集局は、持続可能なまちづくりを目指します  
みなとみらいエリアの魅力を子どもたちに取材してもらい、発信していく活動を楽しんでいます。まちを取材し、まちを愛することも子どもたちがふえることは、持続可能なまちづくりにつながります。ジュニア記者の活動をぜひ応援してください。新聞を配架できる場所も募集しています。  
認定 NPO 法人ミニシティ・プラス  
045-306-9004 (担当: 若室晶子) minicityplus@gmail.com

第5号 2023年(令和5年)2月発行  
編集 MMジュニア編集局  
若室晶子 橋本みなみ 平戸由美  
発行 認定 NPO 法人ミニシティ・プラス  
http://mmjr.minicity-plus.jp/  
(e-mail minicityplus@gmail.com)  
協力 松本道雄  
神奈川大学 経営学部 国際経営学科  
米澤佳樹 橋川亜矢

# 第5号 みなとみらい Jr. タイムズ

みなとみらい 21エリアは、横浜市の六大事業として整備されてきた横浜市の中でも新しいまちです。商業施設やオフィスなどを中心に、計画都市として成熟するなか、暮らす人々も増えました。小学生から高校生までのジュニア記者が、このまちの多様な魅力をこども目線で伝えます。MMジュニア記者の活躍にご期待ください。

**畑をやっています!** 折下 陽琉 (小5)

僕は家の近くに畑を借りて、祖父に教えてもらいながら野菜を育てています。雑草取りなど大変なこともあるけれど、収穫は楽しいし、地球のためにもなるので畑を大切にしています。よく行くスーパーにも地元の野菜のコーナーがあり、変わった野菜も売っていて、最近はお鬼柚子という大きいほこぼこした果物を買いました。地元の野菜を買うことによって、生産者を応援でき、国内自給率も増えます。

**FSC 認証マークのついた商品を買おう**

FSC 認証マークは、適切に管理された森林から生産された木材を、適切に加工・流通している商品であることを証明しています。同じ商品があったらこのマークがついてある方を買います。よく買うのは、パルメードカレーとトロボカーナのジュースです。食べ物だけではなく、いろいろな商品にマークを見かけます。

**そのキャップ捨てないで!** 馬場 航平 (小5)

僕が通う野庭すずかけ小学校には、ペットボトルのキャップを集める活動があります。なぜ始めたのか知りたくて、6年生の担任の先生に取材しました。活動がはじまったきっかけは、子どもたちが平和スピーチコンテストのためSDGsについて調べ、この活動を知ったことからです。

ペットボトルのキャップを集め、専用の施設に送り、資源として売ってお金にします。そのお金でワクチンを買って、世界のワクチンが受けられない子どもたちを支援する活動です。この活動なら世界で問題になっている、プラスチックごみと、困っている子どもたちを助ける2つのことに協力できます。約2kg(860個)のキャップが20円売れ、ワクチン1人分になるのです。近所のスーパーや集会所にも協力してもらっていて、数えきれないほどたくさん集まりました。

僕は、捨ててしまうものを集めることで簡単に手軽に協力できるので、とてもよい活動だと思いました。みなさんもぜひ参加してみてください。

## できることから始めよう! SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

**つくる責任つかう責任** 角田 和瑛 (高1)

解決しなくてはいけない問題の多くは人間の開発によるものであり、このままだと地球に深刻な影響を及ぼすとされています。これを防ぐためにも、僕たちは「作ること」「使うこと」に責任を負わなくてはなりません。それは食品、廃棄物、エネルギーなど、僕たちの日常生活にも大きく関わっていることです。一人一人が大きな変化をもたらせるわけではありませんが、世界の人々が身近な問題を解決することで、さらに大きな活動へとつながっていくのではないのでしょうか。

僕がこの問題の現状を知る際、実際に使っているのは、エコロジカルフットプリントです。これは人間の活動による負荷を浄化できる土地の面積を表したものです。この指標では、人間の活動が地球の生産力を超えたのは40年前とされており、今ではさらなる負荷がかかっていると読み取ることができます。持続可能な社会を作っていくためにも、「作り、使う」という一連の循環の中に「ごみ」を減らす、材料として再利用する「アイデア」を組み込んでいかなければいけないと思います。僕は、飲み物を買う際ペットボトルではなく紙パックの商品を買うことや、いつもマイバックを使うことを心がけています。

**小さな命を大切に** ビョンソヨン (小5)

たとえば、ハエは人間にとっては役に立たずかもしれない。しかし、ハエのよう虫は、虫の死体などを食べ自然をキレイにしてくれています。アリも小さいですがしっかりと生きています。人間の力で生き物の命を大切にしたいです。

私は、生き物を飼うときには責任をしっかりと持たないといけないと思います。おもちゃのようなかんかくで飼うと、考えなかつたトラブルがあったときに簡単にすててしまいます。命の価値は同じです。私のクラスではメダカを飼っています。「時間が無い」「むずかしい」などの理由で水そうのそうじを先のぼしにしたことがありました。すると、水質悪化で死んでしまいました。人のじょうでペットを殺してしまうことは絶対にいけないと思うきっかけとなりました。

人より「小さい」「よいい」その理由で生き物をふりまわしてしまふことはだめだと思えます。すべての生き物の命の価値は同じです。小さな命を大切にしていきたいと思えます。

**記者活動がSDGsにつながる** 山本 未来 (中2)

私が大切にしているSDGsは、11番の「住み続けられるまちづくり」です。私はこのMMジュニア記者として活動を数年行い、さまざまな場所へ取材に行ったことでこの目標を身近に感じるようになりました。まちの人々が安全・安心、そして快適に暮らすには、ライフラインを支える水道局や熱供給システム、問題を解決してくれる銀行や市庁舎が必要不可欠だということ。美術館やホテル、カフェ、ラジオ、まちなかで行われるイベントは、様々な人と交流する活気溢れる場として大切なものということ。

普段は知ることのできない企業や施設、イベントがまちどのように上手に関わってwin-winな関係を広げることができているかを知ることができます。これは、将来まちをつくらせていく立場になる私にとって、とても大事なことだと思います。

また、取材によって、人と繋がることができます。たくさんの人と繋がることでいろいろな場面で協力することができます。みんなが協力し合うことでどんな問題・目標でも達成することができるのです。私は、この記者活動を通してこれからまちの仕組みを知り、多くの人とつながることで、未来も住み続けられるまちをつくらせていきたいです!

**子どもたちとSDGsに取り組む企業・団体募集!**

認定NPO法人ミニシティ・プラスは、**子どもの地域社会参画**に取り組んでいます。  
★子どもたちが創るこどもの仮想のまち「ミニエコハマシティ」  
★こども目線で地域を取材し、発信する「ジュニア編集局」  
★大人のまちづくりの困りごにこどもを派遣し、一緒にまちづくりに取り組む「特命子ども地域アクター」  
3つのプロジェクトを中心に活動しています。

「地域の役に立ちたい!」というこどもたちがミニシティ・プラスにはたくさんいます。こどもたちとSDGsに取り組む、一緒に活動し、こどもたちを応援してくれる団体・企業を募集しています。以下のアドレスでコンタクトお待ちしております。

認定 NPO 法人 ミニシティ・プラス  
公式HP minicityplus@gmail.com